

**高知
県労連**

No. 129
発行：高知県労連書記局
住所：高知市丸ノ内2-1-10
〒780-0850 高知城ホール3階
[TEL]088-872-3406
[FAX]088-822-7969
ホームページもご覧下さい。

震災支援全面に 国民的な団結を目指す

第82回高知県中央メーデー



第82回高知中央メーデーの様子

五月一日、第八十二回高知県中央メーデーが、開催されました。高知市中央公園には、県労連や民主団体、友好組織、約一〇〇〇名が集まり、地震による被災地支援や、働くものの生活と権利を守り、平和と民主主義の実現を掲げました。

オープニングではセンター合唱団が『ふるさと』を合唱。その歌声に被災地への思いをかさねました。会場となった高知市中央公園には、あいにくの雨にもかかわらず、約一〇〇〇名が集まりました。西山潤県労連委員長らの主催者あいさつ冒頭で、三月十一日の東日本大震災の犠牲者、被災者に黙とうを捧げました。それと共に、被災地支援のために労働者の生活と権利を守り、経済の底上げを目指そうと決意をのべました。

来賓には日本共産党から春名なおあき元衆議院議員において頂きました。また、高商連と農民連から連帯の挨拶をいただきました。各組織の決意表明では、県国公から地域主権改革の

見直しと共に、震災支援や復興に全力を注ぐ組合員の姿勢が語られました。また、現在社保庁の分限免職問題で闘う全厚生組合員から不当な扱いに対し、断固争い抜く決意を述べました。高知一般からは、医療生協で震災ボランティアへ参加された組合員が、東北の状況も交えながら決意を述べました。また、自治労連からは、子ども達のためにも、震災の混乱に乗じて、保育の新システムを国会で可決させない、という決意が語られました。

その後、メーデースローガンと宣言案の提案を行い、拍手で採択されました。閉会宣言ののち、センター合唱団のリードで、被災地支援の思いを込めた合唱を行い、最後にスローガンをコールし、団結ガソリンで締めくくりました。集会后は、各団体の代表者が日曜市で震災救援を訴え、宣伝と募金行動に取り組みしました。また、ステージ周辺では被災地応援の寄せ書き、東電・政府・自治体への要望カード、折り鶴を作成しました。

針路

「クレームも社員じゃわからんパート出せ」
「何になる？子ども
の答えは正社員」
「ボーンスはメガネかけても飛び出さず」。先日発表されたサラリーマン川柳の二、三、六位の作品。今の非正規、正規職員の状況を映し出している▲
「人々の嘆きみちみつるみちのくを心してゆけ桜前線」「かりそめに死者二万人などといふなかれ親あり子ありはらからあるを」。長谷川権氏の「震災歌集」。「普段から詩歌を風流ごとでやっつけない」という権氏。三月十一日の震災の夜から沸き出る思いを短歌にまとめたという▲また、これまで短歌や俳句をやったことなかった人たちが、震災の惨状を目の当たりにして、詠みはじめていると言う。「おどおどと首相出てきておどおどと何事かいて画面より消ゆ」▲私も「神の手と人の手による国難に人の手により立ち向かいつつ」。こんな歌を詠んでみた。サラ川と権氏の歌、対極のようでそうではない。従来の貧困に覆いかぶさる震災貧困。政治の貧困を取り去るのは、人の手だ(田)。

東日本大震災救援

—運動の輪—広がる



開村式の様子

労働くらし何でも相談会

労働・生活関連の相談十六件

くらしあつたか村実行委員会は、四月二十九日、帯屋町商店街のグリーンロードで「何でも相談会」を実施しました。合計十六件の相談が寄せられるとともに、震災募金にも取り組みました。

四月二十九日、ゴールデンウィーク初日の祝日に、帯屋町商店街のグリーンロードで「何でも相談会」を実施しました。今回は、「東日本大震災救援・労働くらし何でも相談会」と銘打って、震災募金も呼びかけました。また、中央公園北口のテントでは、高知県作成の南海地震のパネルや国土交通省作成の防災パネルを展示、地震や津波の怖さと備えの必要性を訴えるDVDもパソコン二台で観られるよう用意しました。

寄せられた相談は、全部で十六件。相談・登記が六件、労働問題四件、生保など生活関連四件、年金二件でした。血圧測定は四十五人でした。

震災関係での解雇等の相談はありませんでしたが、雇い止めなど依然として深刻な実態が浮き彫りになりました。

震災救援・復興に力を尽くすとともに、従来からの貧困や労働問題などにきちつと対応し、震災関連で労働問題（解雇、採用内定取り消し、労働災害）や生活問題が深刻

青年部最賃体験スタート！

県労連青年部は五月八日、翌日に最賃体験スタートを控え、『最賃説明会・生計費シミュレーション』を開催しました。

生計費シミュレーションでは、二十五歳単身が「健康で文化的な生活を営むには、実際にはどれくらいの所得が必要か」というのを、マーケットバスケット方式を使ってシミュレーションを行いました。二つのグループに分かれ、情報誌を片手に住居費や家電、衣類など必要なものを洗い出していきました。（結果下記）

今年の最賃体験には、県労連青年部役員だけでなく高教組や自治労連、民青同盟など幅広い参加者が集まっています。誘惑に負けず一ヶ月頑張ります。（牧）



グループで出した生計費を合計する様子

結果	
男性	月収 240,056 円
	年収 2,880,671 円
女性	月収 252,367 円
	年収 3,028,400 円
時給に換算すると (171時間/月)	
男性	1,403 円/時間
女性	1,475 円/時間

化しないよう高知でも注意を払う必要があります。二〇〇九年の年末からはじまった『あつたか村相談会』の時期に開かれるのは、昨年に続き二回目。高知県、高知市の後援、弁護士四人、司法書士五人の協力も得て、更に

今回は四国労働金庫高知支店から三名の方に協力していただきました。相談の輪が、確実に広がっています。なお、当日は一万二四九八円の義援金が寄せられました。ご協力いただいた皆様ありがとうございました。

全労連四国地区協議会

四電へ地震対策要請

止や、自然エネルギーへの転換など九項目を要請しました。

五月十七日、全労連四国地区協議会と伊方等の原発の危険に反対する愛媛県民連絡会議は、東日本大震災による福島第一原発事故を踏まえ、伊方原発の総点検と安全対策、苛酷事故・緊急時の防災対策を求める申し入れを四国電力株式会社へ行いました。

要請側の十七名（高知県労連三名）に対し、四電は広報担当など五名が対応しました。要請では、原発安全性の総点検や地震による津波対策の抜本的見直し、プルサーマルの中



四電要請の様子

四電は、地震や津波の想定を引き上げ、対策を取っていることを強調しましたが、プルサーマルの停止や原発自体の見直しには、電力供給量の問題を引き合いに出し、東北地震以前と変わらぬ返答に終始しました。

伊方原発の一号機はすでに運転開始から三十三年、二号機は二十九年が過ぎています。老朽化と地震・津波が重なり甚大な被害が出る可能性は否定できません。しかし、四電は、地震による配管破損の対策を持っていません。要請でも、「想定を引き上げ検証したが、地震による配管の破損は起きない。よって破損した場合の対応策は必要ない。」との発言も聞かれました。福島第一原発で起きた『想定外』が教訓になっていません。
安心・安全のくらしを守っていくためにも、原発から自然エネルギーへの転換を四電へ求めて行かなければなりません。

樞やん奮戦記(15)

医労連・地震学習会

5月8日、地場産センター学習室にて、医労連が地震学習会を開催しました。講師は高知大岡村教授。約70名が参加し、南海大地震について学習をしました。

— お知らせ —

こうち労働相談センター
電話受付時間を延長

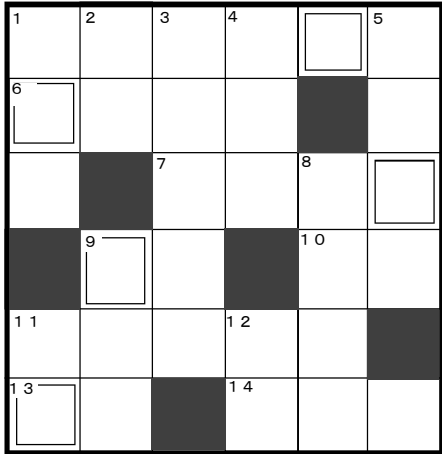
3月19日（土）より
平日（平日9時～18時）
にくわえ土曜・日曜も
10時～16時に電話
相談を受け付けます

フリーダイヤル
0120-
378-060

四月は、東北関東大震災救援・何でも相談会を含め二十二（うち、女性七人、男性十五人）から、相談が寄せられました。年齢は、二十代二人、三十代一人、四十代四人、五十代二人、六十代二人、不明十人。雇用形態は、正規九人、契約・臨時三人、派遣一人、不明八人。相談内容は、解雇・雇止め三人、退職強要一人、賃金・不払い残業八人、労働条件切り下げ一人、労働時間一人、労働環境一人、ハラスメント一人、労働災害一人、派遣問題一人、配置転換一人、その他三人。昨年十月労働相談センター総会後からの累計は、相談者数二二九人、組合加入数二十四人です。四月を含め最近の相談者の傾向は若年層から高齢層まで広範囲な働く人たちに及んでいます。年齢の如何を問わず全年齢層（相談者）から切実で深刻な相談が寄せられていますが、その背景には解雇や賃金・不払い残業などをめぐる実際の相談事例からとりわけ労働者や労働関係法を軽視している雇用主（企業規模の大小にかかわらず）のモラル・ガイドがあると考えられます。四月の相談のトップは八件の賃金・残業代の未払い問題をめぐる相談でした。

特徴的な事例の紹介

高知市に本店を置き全国のイオンをはじめ大型量販店等のテナント（店）で、バッグやアパレル商品を販売している会社に勤務する女性（四十人）から賃金の未払いをめぐり相談が先月（三月）から相次ぎました。それぞれの相談者からの話をまとめると、本店は廃業寸前で経営者が経営の生き残りをはかるためいくつかの店舗での売り上げに望みを賭け、かろうじて経営を継続。一方、社員には賃金を支払わず自転車操業を繰り返しているという事実が浮き彫りになっていました。中小零細の経営者が経営困難に陥り労働者を犠牲にし、また、労働基準法違反を犯しながらでも経営を続けているという、最近多く見られる賃金未払いの典型事例です。今回、紹介した賃金未払いの対象者（相談者）のうち二十歳の女性（一人）は高知一般労組に個人加盟し、会社に対し、団体交渉で粘り強く賃金支払いを求めています。



クロスワードパズル

カギを解き、二重ワクに入る文字を並べ替えてできる言葉は何？

「タテのキー」①自動販売機の略 ②大阪夏の○○ ③

【ヨコのキー】

①裏側の事情を知る人 ⑥戦争に反対すること ウェブスター「おじさん」

②にすます ⑩百〇〇あって一利なし ⑪銀座は繁華街の〇〇に火をともし生活 ⑭新聞等の記事面

ガラクターの指使い ⑤を晴らす。を抱く ⑧横目、秋波 ⑨自分のした過ちをに思う ⑩〇原発、〇サラ⑫〇〇の上にも三年

④演奏等の指使い ⑤を晴らす。を抱く ⑧横目、秋波 ⑨自分のした過ちをに思う ⑩〇原発、〇サラ⑫〇〇の上にも三年

クロスワードパズル 図書券プレゼント チャレンジ

《応募方法》

クロスワードの答えと、機関紙の感想、組合名、郵便番号、住所、氏名、年齢を記入の上、県労連書記局宛にお送り下さい。

抽選で三名様に図書カードをプレゼントします。(ハガキ、FAX、メール)締め切りは翌月の二十日になります。

当選者の発表!

128号・クロスワードパズルの答えは「ハナグモリ」でした。当選者が抽選で決定しました。おめでとうございませう。当選を逃した方もドンドン挑戦してください。

《当選者》

濱田 明代さん (四万十市公労)

中山 裕康さん (県教組)

田上 健太さん (土佐町職労)

交通災害共済

もしもの事故に強い味方!

●月500円で死亡時1,000万円 入院日額15,000円の保障

●年齢に関係なく加入できる!

全労連共済 お申し込み・お問い合わせは各共済会へ

携帯からの相談もフリーダイヤルで無料です。お気軽にご覧ください。

携帯からの相談もフリーダイヤルで無料です。お気軽にご覧ください。

県労連は携帯サイトを開設しました。

国民大運動 「総会&学習会」

◆とき 6月11日(土) 13:30~

◆ところ 高知城ホール 4F

◆内容 1部:学習講演会 「東日本大震災の教訓と南海大地震」

講師:高知大学理学部 岡村眞教授

2部:11年度総会

二〇一一年・平和行進日程

5月27日 四万十町

28日 中土佐町→須崎市

29日 仁淀川町→佐川町

30日 日高村

31日 いの町

6月 1日 土佐市

2日 大川村→本山町

3日 大豊町

4日 高知市(網の目行進)

5日 高知市

6日 香美市

7日 香南市

8日 芸西村

9日 安芸市

10日 安田町→奈半利町

11日 馬路村→室戸市

12日 東洋町

時事川柳

一波に押し流し益強(源朝光)

立ち上られ怒れ孤独の高齢者 (幸泉)

餅を飲む田舎列々(源朝光)

昇り見て月も瓦礫に無言たり (源朝光)

年金で喰えぬうばすて山行きた (幸泉)

建てるなら備えて安心共済へ (牧師)

被災地応援メッセージ募集中

第57回 原水爆禁止四国大会

日時:7月9日(土)~10日(日) 15:00~

会場:新居浜市総合福祉センター

講演:『ビキニ被災の真相を追いつづけて』 山下 正寿さん (元高知県高校教師)